

日本赤十字看護大学 研究データ管理・公開ポリシー

日本赤十字看護大学（以下「本学」という。）は、建学の精神である「赤十字の人道」に則り、いかなる場合においても一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利を、看護を通し広く社会に、さらには国際的な分野においても実現するために、看護学に関する専門分野の教育、研究を行うことを目指している。

この建学の精神の下に、本学では学生と教職員が人道の実現に寄与するための知を探究できる研究環境の創出を目指して、研究データを適切に管理し研究データの価値を守り優れた研究を行うこと、研究データの公開により利活用を促進し研究データの価値を高めることを目的として、本ポリシーを以下のとおり定める。

なお、本ポリシーは本学における研究データの管理、公開及び利活用に関する方針を示すものであり、法令、契約、本学が定める規程等の実施に制約を与えるものではない。

（研究データの定義）

1. 本ポリシーが対象とする「研究データ」とは、本学における研究活動の過程で研究者によって収集又は生成された情報を指し、デジタルか否かを問わない。

（研究者の定義）

2. 本ポリシーにおいて研究者とは、本学と雇用関係にある職員に限らず、学生、研究員、その他本学における研究に携わる全ての者をいう。

（研究データの管理）

3. 本学は、原則として、研究データを収集又は生成した研究者がその研究データの管理を行う権利と責務を有していることを認め、研究者は、研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、その法的及び倫理的要件に従って研究データ管理を実施する。

（研究データの公開）

4. 研究者は、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、その法的及び倫理的要件に従って、可能な限り社会に研究データを公開し、その利活用を促進する。

（大学の役割）

5. 本学は、研究データの管理及び公開を支援する環境の整備を推進する。

（その他）

6. 本ポリシーは、社会情勢や研究活動を取り巻く環境の変化等に応じて、適宜見直すものとする。

令和7年4月1日制定